

「土木遺産」②

先週に引続き橋の土木遺産です。

「橋」と言っても今日は鉄橋です。

「ラチス」という言葉をご存知でしょうか。

余り聴き慣れない言葉ですがラチスとは、柱や梁などの間を斜め、またはジグザグ状に構成した補強材のことを指します。

ガーデニングなどで植木鉢を吊り下げている木製の壁もラチスと呼びます。

ラチス橋梁はアングルを組み合わせた橋梁で、過って日本には 11 箇所
のラチス橋梁がありました、老朽化等の理由で新しい橋梁に改修されました。

日本には3箇所しか現存していないという貴重な土木遺産です。

その3箇所の内、2箇所が兵庫県内にあります。

但馬地方の城崎の近く流れる竹野川に架かる「竹野川橋梁」と、もう
1 箇所が浜坂の近くを流れる田君川に架かる「田君川橋梁」です。

ラチスの垣根のように向こうが透けて見える変わった桁を列車が軽
やかな音を立てながら通過して行きます。

元々、ラチス橋梁は 19 世紀にドイツで考え出された古い工法の橋梁です。

このユニークな橋梁は大正7年に大洪水で鉄橋が流され、当時は大型の鉄製品を生
産することができず、しかも第一次世界大戦の影響で外国から大型鋼板の輸入も困難
であり、やむを得ず幅の狭い鉄板を加工してL型のアングルを組合わせて造られていま
す。

ドイツでも同じ理由で考え出され、造られていました。 中々、
手間のかかる工法で賃金が安かったからできたのでしょう。

もう一ヶ所は山口県津和野にある徳佐川橋梁です。

先人の苦労を忍ぶことのできる財産です。

いつまでも大切にしたいものです。



ラチス



ラチス橋梁

